

10月9日(月)

正しい人

聖書朗読 詩篇 37:23~31

あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。主は決して、正しい者がゆるがされるようにはなさない。 詩篇 55:22

ダビデは敵に囲まれていました。ダビデは毎日、主に、自分の敵について語り、助けてくれるように祈りました。祈るときにはいつも最初に主への信頼の言葉を申し上げ、それから自分の問題について語りました。

詩篇16編5~8節では、ダビデがこう語っています。『主は、私へのゆずりの地所、また私への杯です。あなたは、私の受ける分を、堅く保ってくださいます。測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。私は助言を下さった主をほめたたえる。まことに、夜になると、私の心が私に教える。私はいつも、わたしの前に主を置いた。』

ダビデの言葉は私たちにとって大切です。主への彼の信頼が無数の言葉となって私たちを力づけ、私たちに主に信頼する力を与えてくれるからです。ダビデの賢明な言葉は、私たち一人ひとりを勇気づけてくれます。私たちの言葉も主の智慧をもって語られるべきです。それを聞く人にとっては、一語一語が重要だからです。聞いた人が誰か他の人にまたそれを語るということもあるのです。

ダビデが語るような信頼と自信を私たちも持てば恐れは減り、平和に満ちた人生をおくることができるようになります。

讃美歌 315

祈り 親愛なる主よ。私たちが恐れなく生きられるように、あなたが正しい道へ導いてくださると信じることができるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

スー・ラザム

(スーは今年初めに主のもとに召されました。

「今日の力」にこめられたスーの信仰と共に、彼女をしのびます。)

今日の力

2017年10月9日~10月15日

翻訳 ゲラ弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月10日(火)

砂時計の砂が落ちるように

聖書朗読 詩篇 39：1～6

私の一生は、あなたの前では、ないのも同然です。

詩篇 39：5

ずっと続いているテレビのドラマ番組に「Days of Our Lives (人生の日々)」というのがあります。その番組は毎回、「人生の日々は、まるで砂時計の砂がすべり落ちるように早く過ぎ去る」という決まり文句で始まります。

もう生活の中で時間を知るために砂時計を使うことはありません。私たちはカチカチと1分間を刻む時計を使っています。また、一時間ごとにチャイムが鳴る時計を使っている人もいます。私たちの時は、一刻、一刻、刻まれているのです。時から自由になるには、カチカチという時計の音を無視するか、または詩篇の著者のように、神様に私たちの貴重な時間を贖ってくださるようお願いするかです。

神様の聖なるお言葉に従えば、時間と人生を上手にバランスさせることができます。礼拝で過ごす時間、他人に奉仕する時間、自分の時間、適度の休憩、家族のための時間、仕事する時間。これらはすべて、いのちを与える時間の使い方です。

私は妻のカーリルが亡くなるまで33年間一緒に過ごしました。これらの時間を振り返ってみると、愛したり、大変なことがあったり、成長したり、いろんなことがありましたが、今ではこの33年が「束の間」だったように思えます。

私たちが殊に意識して神様を念頭において時間を過ごさないかぎり、一日はただ過ぎて行き、また次の日も同じように過ぎて行ってしまう。私たちには今日しかないのです。そう思って生きましょう。

讃美歌 90

祈り 親愛なる主よ。私たちも時が過ぎるのは早いと言いますが、私たちに時間をくださったことに感謝します。私たちがあなたの愛の道の中で、バランスを保ちながらこの日を送る事ができますように。

キリストを通して。アーメン。

バージル・フライ

テキサス州 ヒューストン

10月11日(水)

奇しいわざ

聖書朗読 詩篇 40：1～5

わが神、主よ。あなたがなさった奇しいわざと、私たちへの御計りは、数も知れず、あなたに並ぶ者はありません。私が告げても、また語っても、それは多くて述べつくせません。

詩篇 40：5

私はインカ帝国の遺跡マチュピチュを訪れていました。かつては建造物の一部だった巨大な岩山を登ると、修復された部屋を調べることができました。私は、アンデスの高みにこのように巨大なものを建造した古代の建築技術に目をみはりました。彼らはどうやって岩を山頂まで運んだのでしょうか。目的は何だったのでしょうか。なぜ廃墟となったのでしょうか。これらの疑問から、この遺跡は2007年に世界の七不思議の一つとなりました。まさに人間が創造した傑作です。

突然、仲間の探検家が「早く来て！」と叫びました。事故でも起こったのかと思って駆けつけると、事故ではなく、仲間は笑いながら崩れかけた壁の隅を指差しました。一頭のラマが出産しているところでした。私たちはラマの赤ちゃんがこの世に生まれてくるところを見守りました。赤ちゃんは、母ラマに身体をきれいにしてもらいながら、4本の脚を踏ん張ってよろよろと立ちました。私は感動して立ちすくみました。このラマからマチュピチュの遺跡の建築者や住人にいたるまで、すべてを想像したのは神様です。

ダビデだけでなく、私たちも神様の奇しいわざと御計りの数を語りつくすことはできません。創造主の栄光を讃えましょう！

讃美歌 第二編 211

祈り 親愛なる創造主なる神様。あなたの奇しきわざと強大な力ゆえにあなたを讃えます。あなたのイメージに造られた私たちが、あなたのご計画と目的にそって生きられますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョイス・ハーディン

テキサス州 オースティン

10月12日（木）

神様は私たちの避け所

聖書朗読 詩篇 46編

アッシリヤは人間のものではない剣に倒れ、人間のものではない剣が彼らを食い尽くす。アッシリヤは剣の前から逃げ、若い男たちは苦役につく。

イザヤ 31：8～9

今日の朗読箇所、詩篇の46編は、おそらくヒゼキヤ王の時代にアッシリヤの王セナケリブの軍隊が突然壊滅した時のことを書いたものでしょう（Ⅱ列王記 19：35）。この文章は感謝と自信と賞賛に満ちています。詩篇47編はこう始まります。『すべての国々の民よ。手をたたけ。喜びの声をあげて神に叫べ。』

詩人バイロンはⅡ列王記19章35節に基づく詩を書きました。その詩「セナケリブの破滅」は次のように終わります。

死の天使が翼を突風のように広げると

次々に敵の顔に息を吹きかけた

アッシリヤは天使の刀によって打ちのめされ

その軍は主の目前に、雪のように解けてしまった

周囲の状況によって圧倒されると感じる 때가人生には度々あります。子どもたちが人生の選択を誤るかもしれません。失業して就職口を捜すのに苦労するかもしれません。キリストにある兄弟姉妹に失望させられたり、見放されたりするかもしれません。そんな時には、神様が私たちの避け所であり、助けて下さることを思い出しましょう。

讃美歌 286

祈り 親愛なる主よ。困難が私たちを恐れと迷いに陥らせるときは、あなたが制御なさっておられることを思い出し、あなたの約束を信頼することができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

スコット・ゲージ

アーカンサス州 ファイヤットビル

10月13日（金）

神様のわざとは？

聖書朗読 詩篇 50：12～15

この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。

ヨハネ 9：3

最初の子が生まれたとき、ミルクを飲ませたり、入浴させたり、着替えさせたりしながら、私たちは幸福の喜びを味わいました。子育ての最初の数年間は、親は子どもからなんの見返りも期待する必要はありません。世話をすること自体が親にとってはこの上ない喜びなのです。

イスラエルは、神様のことを忘れる傾向がありました。神様は本当にはイスラエル人からは何も必要としてはいなかったのです。神様は飢えず、渇かず、凍えることもなく、すべてをすでにお持ちでしたから。神様に賄賂やお金は通用しません。

しかし神様が欲するものがあります。『苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう。』（詩篇 50：15）。そうです。神様はご自分の子どもたちを救い出し、助け、祝福することを喜ばれます。私たちの感謝の祈りが神様を喜ばせるのです。心から感謝をささげれば、それが私たち自身の喜びとなります。また、他人もそれに倣って神様を求めるようになり、主の恵みをいただくことができるようになるのです。

今日、あなたに必要な助けは何ですか。神様はあなたのことを熱心に聞いてくださり、あなたとその周囲へ、祝福をもって答えてくださいます。

讃美歌 第二編 9

祈り 親愛なる主よ。私の祈りを喜んで聞いてくださることに感謝します。今日の日に私に必要なのは、あなたのご意思を心待ちにし、そして私に良い事をしてくださることに対し、あなたを讃えることです。

イエス様の御名において。アーメン。

イアン・K・シェルバーン

テキサス州 アビリン

10月14日 (土)

恐 れ か 信 仰 か ？

聖書朗読 詩篇 56編

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたのことを心配してくださるからです。

I ペテロ 5：7

『恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。』(詩篇56：3)。この節を私たちの子どもたちに教え、子どもたちが神様に完全な信頼をおけるように手助けしなければなりません。世界が戦争をしているときは、特にです。私たちの信頼はたじろぐかもしれません。しかし、詩篇のダビデの言葉でさえ、落胆と確信のあいだを行ったり来たりしています。私たちの信頼も、絶望と確信のあいだを行ったり来たりするのです。

私たちは感情を表現することによって自分自身を支えようとしします。本当に恐れているのではなく、やってくる不安に対し理論的な答えがほしいだけです。私たちに信仰がないわけではありません。潜在的な問題に対し最良に対応するための方法が知りたいのです。私たちは本当に心配なのではありません。将来どんな悪い事が起こりうるか頭で考えているだけなのです。結局は、取り越し苦労です。

しかし、本当の恐れから、私たちが神様へ信頼を託すことは、とても重要なことです。ダビデがしたように。神様は実際に私たちの周りにおられます。神様は私たちの背後で支えてくださるだけでなく、私たちに危害を加えようとする者たちの目前に立ちだかつて守ってくださいます。ですから、私たちもダビデと共に言いましょう。「主よ、私たちはあなたと共に、あなたが与えてくださるいのちの光の中を歩みます」。

讃美歌 494

祈 り 親愛なる主よ。将来、不安や恐れに面しても、あなたがいつも私たちの味方でいてくださると知り、嬉しく思います。あなたの力と存在にすべてをゆだねて私たちが成長できますように。

主なるイエス様の御名において。アーメン。

ノーラ・プリビット

カリフォルニア州 サウザンドオーク

10月15日(日)

重 荷 に 耐 え る 力

聖書朗読 詩篇 68編

ほむべきかな。日々、私たちのために、重荷をになわれる主。

詩篇 68：19

人生が何か悪い方向へ行きそうなとき、私は力を奮い立たせて神様に力をくださるように頼み、その重荷を担おうと行動します。自分は頑健でタフな男だと思っています。悪魔には、俺にはかなわないぜ！と言ってやります。しかし、聖書を読んでいたら今日の朗読箇所、詩篇68編にぶつかりました。それは、重荷を担うのは私の仕事ではないことを思い出させてくれました。

私の重荷を担ってくれるのは神様であると知り、新鮮な気持ちになりました。そしてすぐに、聖書の中の他の箇所も見つけました。『あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。主は決して、正しい者がゆるがされるようにはなさらない。』(詩篇 55：22)。それから次の箇所もです。『何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』(ピリピ4：6～7)。

では、神様に力をくださるように頼むのをやめますか。いいえ、私には人間の限界を超える力がいつも必要です。しかしこれからは、私はあるものを神様に頼むことに決めました。それは重荷を担う力ではなく、主を信頼して重荷をおろす力です。

讃美歌 33

祈 り 親愛なる主よ。弱くてあなたに全面的に頼らなければならない私の力を、どうか強めてください。今ここに私の重荷をあなたの足元へ下ろします。これらの重荷を、あなたを信頼してゆだねることができるよう。

イエス様の御名において。アーメン。

パット・アンドリュース

テキサス州 アビリン